
I can BREAK all.

終

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

I c a n B R E A K a l l .

【Nコード】

N 3 7 9 2 M

【作者名】

柊

【あらすじ】

神をも破壊する腕を持った青年。

そんな彼がネギまの世界へと飛ばされた。

生きる理由のない彼はネギまの世界で何を思い、なんのために拳を振るうのか。

そんな感じのお話になったらいいなって思ってます。

（前書き）

初めまして、皆様方。

何分今回が初投稿なので、温かい目で見守っていただけると光栄です^^

ちゃんと続くかどうか分からない物語ですが、行き当たりばった
りでがんばっていききたいと思います！

吐き気がするほどまっさらな部屋。

そこに俺はいた。

両手両足を拘束され、満足に動けない状態でただ眼前に佇む若い男を睨みつける。

奴は神だった。

この世界を支配する何柱もの神のうちの一人。

圧倒的な存在感、絶対的な存在感を出しながら悠然と佇んでいた。

「……で、俺はどうなるんだ？」

だが俺はそんなものに負けてやるつもりも義理もない。

どこまでも生意気に、どこまでも獰猛にやつを見る。

と、周りに控えていた騎士風の天使たちが俺に槍を向ける。

ふっと奴が笑った。

奴が軽く手を挙げると、騎士たちは渋々槍を引く。

その余裕が気に喰わなかった。

「普通なら君の魂ごと消すことになるだろうね

輪廻転生の輪から外れ、二度と生を受けることはない

曲がりなりにも君は神の石柱を殺したのだから」

魂の消滅。

それは俺という個の消滅。

俺がいた事実が消え、穴埋めするかのように適当な記憶が俺の友人・知人へと埋め込まれる。

…だが、正直どうでもいい。

もうやりたいことはやった。

俺が求め続けた復讐は果たした。

ならばもういい。

存在が消えようがどうしようがもういい。

むしろ願ったり叶ったりだろう。

もう生きることには疲れた。こんな幕の下り方が俺には丁度いい。

「ならさっさとしろよ

おまえらの遊びに付き合うのにも疲れたんだ

消すなら、消せばいいさ」

俺がそう言つと奴はクツクツと笑った。

何がおかしい、と思うも口には出さない。

「話は最後まで聞くもんだよ？

私は『普通なら』と言つたんだ

つまり、君の魂が消滅することはない」

…は？

「何を言っているかわからないって顔だね

いやなに、簡単な話だよ

君の言うお遊びつて奴に付き合ってもらおうと思つたのさ」

「冗談じゃないッ！！

あんたたちはまだ飽き足らないってのか！？

俺の人生を弄んで、ぐちゃぐちゃにして！

これ以上いっただいどうしようつて言っただよ！？」

今すぐ奴をぶつ壊してやりたい。

が、拘束された体は言つことを聞かず、ただ力チャ力チャと金属音

を鳴らすだけだった。そんな俺を見ても奴が表情を変えることはない。

淡々とした様子で何かを話す。

だがそんなことはどうでもよかった。今はとにかく拘束をどうにかしてやつを壊してやりたかったのだ。

だからいったいやつが何を言っていたのかわからなかった。

辛うじて聞こえてきた単語は『異世界』『魔法』

そして俺の視界は暗転した。

それではお氣をつけて。

最後にそんな言葉を聞いた気がした。

彼は行った。

平凡だった人生を神の石柱の娯楽によって滅茶苦茶にされ、ついにその神を殺すに至った、異質とも言える青年。

本来であれば彼は責められるべきではない。

だが神は神の罪を認めない。故に彼は消える運命へと導かれた。

果たしてそれは本当に正しいのだろうか？

答えは否だ。

果たしてそれはただの神の傲慢では無かるうか？

答えは是だ。

だから私は彼を異なる世界へと送った。

あそこならば彼は傲慢な神々の影響を受けることはない。

あの世界は完全に独立した特殊な世界だ。

……だがどうだろうか。

彼が向こうで自ら死を選んでしまつては意味がない。

彼の肉体こそ不老の身ではあるが、死のうと思えば死ねる。

「ならばせめて、ささやかな贈り物をしましうか」

彼が心の底から望まない限り死ねないように、生への楔を贈ることにしよう。

……これも私の傲慢か。死を望む彼を私の自己満足で生へと縛り付けるというのだから。

私にはただ、祈ることしかできなかった。

私の傲慢が、彼をいつか幸せへと導くことを。

「神が祈るだなんて……おかしな話です」

呟きはそつと空間へと溶けていった。

（後書き）

ハハハ…ぶっちゃけ意味分らないですよね^^；

まあ主人公がネギまの世界に行く経緯をカッコ良く書きたかっただけですが…

それでは、またあえたらいましょう

読んでいただき、誠にありがとうございました>（――）<

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3792m/>

I can BREAK all.

2010年10月11日00時39分発行